人文学部日本文学科

2018年度の卒業論文優秀者の発表会を開催します。

研究内容に関心のある方、卒業論文を作成する予定のある方はぜひご参加ください。

日時2019年2月8日（金）

午後1時～午後3時30分

※発表者の持ち時間は30分です。その中で発表と質疑応答を行います。

場所2号館第1教室

発表予定の卒業論文要綱

坂口安吾の説話小説研究（相沢　忠雄）

「桜の森の満開の下」「夜長姫と耳男」などの説話小説から、呪術的遊行民と定住民の関係など、民俗学的な表現を取り上げ、坂口安吾の場所観を考察する。

近現代文学の中の宗教（中村　太一）

仏教やキリスト教、新宗教などが、近現代文学にどのように表現されているか、日本人の宗教観の変遷を交えて考察する。

近現代文学における猫の表現（関根　美織）

夏目漱石「吾輩は猫である」以降、猫を主題に書かれた作品が登場する。近代文学以降、猫が物語の中でどのように描かれているのかを考察する。

現代日本文学の中の無縁社会（永岡　純一）

地域社会のつながりがなくなり、人同士の関係が希薄になっている現在は「無縁社会」と言われるが、この無縁社会が現代日本文学の中でどのように描かれているのかを考察する。

吉野新也の食の表現について（定森　綺羅）

吉野新也の作品では、食事を作る・食事をとる表現がよく登場する。これらの食に関する表現が、作品群の中でどのような物語的機能を果たしているのかを考察する。